



舞鶴市【京都府】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：83,778人 ■ 面積：342km²
■ 担当課：舞鶴市文化振興課（平成30年3月現在）



舞鶴市では、赤れんが倉庫群等の身近な近代化遺産を官民が協働して調査をおこない、価値を掘り起こし、PRし、活用してきた。現在では重要文化財の建物を活かした「舞鶴赤れんがパーク」が多くの方に利用されている。このような近代化遺産が歩んだ保存・活用のサイクルを「赤れんがモデル」とし、他の歴史文化遺産でも同様の保存・活用のサイクルを「舞鶴モデル」として創造し、活用に役立てる。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豊かな自然、海との繋がり、近代化遺産、
城下町、引き揚げ

課題

- ・ 歴史文化遺産の調査の推進・継続
- ・ 歴史文化遺産の周辺環境と一体となった保存
- ・ 歴史文化遺産の担い手育成 など

保存活用方針

- ・ 歴史文化の魅力を探る・学ぶ
- ・ 歴史文化の魅力を活かす
- ・ 歴史文化の魅力を引き継ぐ

保存活用のための取り組み

世界記憶遺産・日本遺産のブランドを活かす

世界記憶遺産登録・日本遺産認定により、舞鶴の歴史文化を発信する絶好の機会となっている。これらの遺産認定効果を一層高めるため、遺産のブランドを活かした取り組みを進め、平和学習を中心とした修学旅行誘致を推進するなど歴史文化遺産を活かした観光振興を図る。



指定等文化財の継続的な学術調査の推進

舞鶴市の国・府・市指定文化財は平成29年（2017年）4月1日現在189件にのぼる。今後も舞鶴市の歴史文化を語るうえで重要な文化財の継続的な調査を進め、歴史文化遺産の価値の顕在化を進める。



大規模災害に備えた対策

大規模災害における文化財の被災状況確認のため、未指定文化財を含めた総合的な歴史文化遺産データの把握とデータベースの構築に努める。また、被災時の文化財レスキューのために、行政と大学・研究機関や歴史資料保存ネットワーク等との連携・協力を推進する。



伝統文化や歴史文化遺産の担い手の育成

新たな伝統文化の担い手や舞鶴市の歴史文化遺産を次世代への継承するための担い手育成のための取り組みを支援する。



関連文化財群



舞鶴市は、日本海を航海した縄文時代の丸木舟、戦後の大陸からの引き揚げなど、古代から現代まで海との関わりが深い都市である。そして多様な舞鶴市の個性を特徴付ける歴史文化遺産によって関連文化財群が構成されている。具体的には豊かな自然や今も各地域で継承される祭礼芸能・伝統行事、近世の城や城下町、近代の海軍と共に歩んだ港町、戦後の引き揚げの記憶など多彩な関連文化財群を挙げることが出来る。

ストーリー

- ① 多様な自然に育まれた歴史文化
- ② 人と海との関わりが息づく歴史文化
- ③ 山と里の信仰と交流が培った歴史文化
- ④ 近世城下町と里によって形づくられた歴史文化
- ⑤ 海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化
- ⑥ 引揚者を迎え入れた歴史文化

策定後の成果（見込まれる効果）

① 市内への観光客の誘致
舞鶴の近代以降を特徴付ける「引き揚げ」や「鎮守府」がそれぞれ世界記憶遺産への登録・日本遺産の認定を受け、それらのブランド力を活かしながら観光部局等と連携し観光客誘致を推進している。平成28年度は前年度に対して11万人の増加を記録し、平成29年度は中間報告でそれを上まわる人数が報告されており、更なる増加が見込まれる。



② 歴史文化遺産の保全
指定・未指定の歴史文化遺産を調査し、その価値を再確認することにより、舞鶴の歴史を語る貴重な文化財として継承していくべき必要性がこれまで以上に明らかになった。今後も、地域に埋もれている歴史文化遺産の指定・登録を行い継承を促す取り組みを進める。



③ 地域における伝統文化の保全
舞鶴市内各地で伝承される伝統行事や祭礼芸能は少子化により継承が危ぶまれているものも少なくない。構想策定中に全自治会を対象とした「地域のたからもの」アンケート調査を行って以降、伝統行事・祭礼芸能に対する補助金の相談案件が増加した。今後も、地域の伝統を継承する取り組みを支援していきたい。

